

百万長者の初恋

2007(平成19)年2月12日鑑賞(テアトル梅田)

★★★★



監督=キム・テギョン/出演=ヒョンビン/ヨンヒ/チョン・ウク/イ・ハンソル/イ・カニ/キム・ビョンセ/チョ・ヨンジュン/ハム・ユソン (東京テアトル、クロックワークス 配給/2006年韓国映画/113分)

第2章

禁じられるほど燃え上がる？

……定番(?)の難病モノ純愛ドラマだが、さあその出来は……？ ドラマ形成の核となるのは、祖父から孫への遺言状に書かれた「ポラム高校を卒業すること」という奇妙な条件。もっとも、それがダメな場合も0.1%だけの受け取りはオーケー。さあ、その狙いは……？ ちなみに遺産は12桁のウォンらしいから、日本円でいくら……？ そんな楽しい計算をしているあなたでは、純愛のために0.1%だけを受け取り、99.9%を放棄することなど到底無理……？ ところが、この映画での主人公の選択は……？ 女性だけではなく、男性も大いに泣けるのでは……？

『夏物語』 vs. 『百万長者の初恋』

今や完全に落ち目になってしまったのが韓流純愛ドラマ……？ その上、この映画は、難病モノ純愛ドラマだから、「何だ、またかよ……」と思った人も多いはず……？ しかし何事も見かけだけで判断してはいけない。やはり自分の目で観て確認しなければ……。

2月11日に自分の目で観てダメだと思ったのが、イ・ビョンホンの『夏物語』(06年)だったが、2月12日に自分の目で観て、「これは最高！」と思ったのが、この『百万長者の初恋』。そこで以下、3点にわたって『夏物語』と『百万長者の初恋』を比較検討し、私流にその良し悪しを指摘したい。

比較検討その1 2人の別れ方

『百万長者の初恋』では、恋に落ちた2人が別れるのは、ヒロインの難病のためだから、避けることのできないもの。したがって、その見どころは、最後までどのように看病しながら観客の涙を誘うのかになるが、『夏物語』は1969年という激動の時代が2人を別れさせたもの。したがって、「別れ方」というテーマでは明らかに『夏物語』の方が社会性があり、面白いはず……？

ところが、残念ながら『夏物語』はその点が突っ込み不足。つまり、釈放されてあるいは服役後刑務所から出てきたヒロインと学生運動から足を洗った(?)主人公が別れなければならない必然性がさっぱりわからないわけだ(その点は『夏物語』の評論〈本書136頁〉を参照)。

また、『百万長者の初恋』は定番の難病モノながら、ヒロインがベッドで寝ているだけではなく、2人だけの生活や『サウンド・オブ・ミュージック』(65年)の劇中劇の姿が描かれるため、定番のセリフだけで泣かせるストーリーと違い、話の展開がダイナミックで面白い……？そして、「3分間だけ眠らせて……」のセリフであっけなく死んでいくところがグッド……？

比較検討その2 イ・ビョンホン vs. ヒョンビン

韓流純愛モノでは、何ととってもどんな美男美女が登場するかが最大のポイント。その点、『夏物語』では、ヒロインを演じたイ・セウンはよかったが、主人公のイ・ビョンホンは既に36歳。したがって、そんな彼が20代の学生役を演じて、所詮ムリがある。また逆に三十数年前を回想する60代の老教授役も、同じようにムリがあるというもの……。

ところがその点、『百万長者の初恋』における主人公、やんちゃな高校生カン・ジェギョンを演ずるのは、「2005年夏、韓国で最高視聴率50.5% (年間テレビドラマ視聴率第1位) を記録した、『私の名前はキム・サムスン』で「サムスン・シンドローム」という流行語まで生み出すほどの社会現象を巻き起こした」というヒョンビン。愛くるしいルックスもピツパリだが、彼は1982年生まれだから、当然のことながらこの役づくりには全くムリがない。しかもヒロインの

イ・ウナンを演ずるヨンヒは1988年生まれだから、まだ18歳であるうえ映画初出演の新鮮さが……。

やはり純愛モノには、それにふさわしい若者を登場させなければダメ。既に「韓流四天王」の1人として立派な地歩を固めているイ・ビョンホンは、かつてのフランスのハンサム俳優アラン・ドロンのような道を切り開いていかなかっちゃ……（『シネマルーム7』231頁参照）。

比較検討その3 遺言状のヒネリが最高！

『夏物語』最大のポイントは、1969年という時代、すなわち朴正熙^{パク・チョンヒ}大統領の三選改憲反対に立ち上がった学生たちの「暑い夏」のはずだが、残念ながらそれが全く活かされていなかったのが最大の不満……？ これに対し、『百万長者の初恋』のヒネリは、大財閥の祖父が両親を交通事故で失ったたった1人の孫に対して、全財産を相続させるについて、遺言状にケツタイな条件をつけたというヒネリが最高。

ユ弁護士（キム・ビョンセ）が説明するその条件とは、「江原道^{カンウォンド}のポラム高校を必ず卒業すること」。遺言状には続いて、「この課題を遂行できなかった場合は、私の財産の0.1%だけが、お前に渡されることになるだろう。浅はかな考えはするではない。自主退学も早期卒業も認めない」と書かれていた。華やかなソウルでの世界を離れて、「今さらクソ田舎の高校で3年間（？）もやってられるかよ……」というのがジェギョンの正直な気持だが、ユ弁護士はポラム高校への入学手続などを既に完了。「よっしゃ、自主退学がダメなら強制退学があるだろう……」と考えたジェギョンは、入学後、さまざまな奇策をひねり出し、行動に移したが……？

大財閥の3世といういかにも育ちの良さを感じさせながら、やんちゃでしかも繊細な神経を併せ持つこんなジェギョンをヒョンビンが好演。「韓流四天王」も過去の栄光で偉そうにしていると、後輩から追い越される日も近い……？

ウォンの桁数は……？

日本の通貨円も一時デノミネーションの要否が議論されたが、韓国の通貨ウォ

ンは日本以上のインフレで、2000年当時のガイド本には100円が約1000ウォンと書かれてある。したがって、何万ウォン、何十万ウォンという単位がちょっとした食事や買い物で日常的に飛び交っているのが実態。もっとも、2007年の今は、円安元高と同じように、円安ウォン高が進み、100円が約777ウォンとなっているからご用心……？

他方、百万長者といえ、日本でも昔は羨望の眼差しだった(?)が、今では百万円持っただけでも「長者」とは言えない。そのため、百万長者は今や死語で、せめて億万長者でなければほとんど無価値……？ したがって、韓国ではなおさら百万長者というのは全く意味をなさないはず……？

また、映画の中でジェギョンが語る祖父の遺産の桁数は12桁だから、日本円でいえば11桁。したがって、それは百億円の単位だから、ジェギョン1人で使い切るのはきっと大変……？

見込み違いその1 何とケツタイな村……？

自主退学がダメなら強制退学で、とジェギョンが考えたのは当然。そのため、クラスで1番体格がデカく強そうなミョンシク(イ・ハンソル)に対して無茶なケンカを売っていったのだが、逆にジェギョンによってボコボコにされたミョンシクは、父親から「男は殴られても、悩んだりしてはダメだ」と言われてしまった。そして、「飯でも食っていけ」と勧められたのには、加害者のジェギョンもビックリ。今ドキの日本では、ちょっとした子供同士のケンカでも、たちまち親同士を巻き込み、場合によれば教師や教育委員会を巻き込んだ大騒動になるところだが、ここ江原道の田舎ルールはこんなもの……？

これによって学校から強制退学されることを期待したジェギョンは、見込み違いにガックリ……？

見込み違いその2 校長は仙人……？

日本では「政治家とカネ」の問題が飽きもせず報道され続けているが、これは政治家が常にカネを求めていることの裏返し……？ 年は若いがチョイ悪(?)のジェギョンが、そこに目をつけたのは立派……？ 要はカネさえあれば何でも

できるというのがジェギョンの考え方。

12桁の金の相続権を持ちながら、今はユ弁護士から預金の引き出しを凍結されているジェギョンが、ソウルの遊び仲間に対して「ひと言も理由を聞かずに、あるだけの金を持ってきてくれ」と頼んだのは、江原道のポラム高校の校長ウォンチョル（チョン・ウク）への買収資金調達のため。やっとそろった資金を勇んでウォンチョルに手渡そうとしたが、さすが祖父の友人、仙人然とした(?)ウォンチョルは、ジェギョンの予想に反して金を受けとらないばかりか、逆にそんな行動に及んだジェギョンに対して教訓を垂れてくる始末。これでは、ジェギョンはどうしようもない。

ジェギョンはしばらく我慢してポラム高に通い続け、卒業証書をもらうしかないのだろうか……？

ウナンがジェギョンの前に現れたワケは……？

この映画は、ウナンとウナンの母親（イ・カニ）との関係にもひとヒネリしてあって感動的だが、ジェギョンとウナンとの関係にも重要な伏線を張っているところがグッド！

ジェギョンとウナンがはじめて出会ったのは、莫大な遺産を前提に一流ホテルを常宿としているジェギョンの目の前に、ウナンが突然登場してきたため。この時、ジェギョンはウナンがなぜ自分の目の前に登場し、その後も自分につきまってくるのか全くわからず、こりゃ大金持ちの自分に対して援助交際を求めているのだろうと考えたのだが、それは大きな誤解。実は、ジェギョンとウナンは幼なじみだったのだが、そんなウナンのことをジェギョンが全く覚えていなかったのは、昔のある出来事のせい……？

ジェギョンには、大きな隠された過去が……

そもそもこの映画には、祖父からジェギョンへの遺産相続の話が出るだけで、ジェギョンの両親が全く登場しない。そして、それがこの映画のそしてジェギョンの性格を形づくるうえでの大切なポイント。重大なネタばらしになるが、それを書かなければこの映画のすばらしさが説明できないので書いてしまおう……。

ジェギョンがまだ子供の頃、ジェギョンは両親と共に車でよくウナンが育った孤児院「恩恵園」に通っていた。ところがある日、恩恵園からの帰り道、ジェギョンを乗せた両親の車が交通事故にあい、ジェギョンはケガだけで済んだものの、両親はそれによって命を失ってしまった。つまり、ジェギョンの祖父の所有地に建てられた孤児院恩恵園をたびたび訪れていたジェギョンはその時代からウナンと幼なじみだったというわけだ。

そんなウナンのことをジェギョンが全く覚えていないのは、恩恵園からの帰り道での交通事故による両親の死亡という悲しい過去を、ジェギョンが無理やり記憶から消し去っていたため……。

2月11日に観た『夏物語』は、複雑な時代背景と厳しい社会情勢の下、悲しい恋物語が展開されるのかと思ったら、意外につまらない展開にビックリしたのに対し、今日の『百万長者の初恋』は、いかにも単純そうなラブストーリーながら、こんな複雑な伏線があったことにビックリ……？

キム・テギョン監督も劇中劇の手法を採用……

映画での劇中劇が面白いのは、『恋におちたシェイクスピア』（98年）や『王の男』（05年）等で実証済み……？ そこで、キム・テギョン監督がこの映画で、卒業公演のためとして私の大好きなミュージカル作品『サウンド・オブ・ミュージック』の舞台を用意したのはさすが……。

なぜウナンを中心にクラス全体がそんな稽古に励んでいるのかというと、それは高校卒業のために不可欠な科目とされているから……。もっとも、ジェギョンは当初からそんなものに真面目に取り組む気はないから、お手伝いの役割しか与えられていなかったが、病身をおしてマリア役で頑張っているウナンの姿を見たジェギョンは、遂に自分がトラップ大佐役をやると決意。したがって、校長先生をはじめ大観衆（？）が見守る舞台の上で、ジェギョンからウナンに対して愛を告白するのは演技ではなく、完全な本心……？

ウナンの病名と余命は……？

夏目雅子は白血病、本田美奈子も白血病。そして『世界の中心で、愛をさけ

ぶ』(04年)も白血病だし、現在北川景子主演で公開されている『Dear Friends デイア フレンズ』(07年)も白血病と、美女の命を奪う病気はおおむね白血病と相場が決まっている……？ もっとも、古くは『愛と死をみつめて』(64年)の軟骨肉腫や、近時は『私の頭の中の消しゴム』(04年)の若年性アルツハイマーなど特殊なものもあるが……。

しかして、この『百万長者の初恋』のそれは、肥大性心筋症。これが医学上正式の病名なのかどうかは知らないが、医者の説明によれば、「恋をして胸をときめかせることが1番心臓に負担がかかり悪い」というから始末の悪い病気……？ ウナンはあくまで気丈に振る舞っているが、きっと内心は恐いはず……。

そんなウナンの最後の望みは、初雪が降るまでは生きていたいということ。『オオカミの誘惑』(05年)ではあまり冴えを見せなかったキム・テギョン監督(『シネマルーム7』122頁参照)だが、この『百万長者の初恋』では「初雪が降るまで」をテーマとして、数々の名セリフと名シーンを用意したのは立派。久しぶりに多くの女性客からのすすり泣きの声を満喫しながら、私も涙を……。もっとも、今年の日本のような暖冬の大阪では、初雪は全く望めないから、こんなストーリーづくりはムリ。そう考えれば、映画関係者も地球の温暖化防止のために努力しなければ……？

あなたはできる？ こんな決心……

今やジェギオンには、ウナンが自分にとっていかにかけがえない女性なのか、そして恩恵園がいかに大切な思い出の場所なのか、ということがはっきりとわかってきた。そんな時、ジェギオンの前に登場したのが、あのイケ好かないユ弁護士。彼の報告は、何と「恩恵園は地代を支払っていないため、立ち退いてもらうことになりました」という冷酷なもの……。

財閥3世として12桁のお金を自由に操ることができれば話は別だが、「そんなことはこの僕が許さない！」といくら力んでも、今のジェギオンには何の力もない。そんなジェギオンに対して、ユ弁護士は「1つだけ方法があります」「それは遺産の0.1%分だけを受け取り、遺産相続の権利を放棄することです」と悪魔のささやきを……。さらに、「0.1%相当分を厳格に計算しなくてもいい。要是恩

恵園を買い取ることで遺産相続の権利を放棄することは可能」とも……。

さあ、ジェギョンは恩恵園を救うため、12桁の遺産の相続を放棄するのだろうか……？ もし、あなたがジェギョンの立場だったら、ホントにそんなことができる……？

最後の最後の「おまけ」(?)は……？

この映画が面白いのは、愛するジェギョンの幸せを心から願う祖父からの奇妙な遺言を物語の出発点としたこと。つまり、全財産を相続するについては、ポラム高校を卒業することという条件をつけたこと。しかし、それくらいのことは簡単、3年間(?)我慢すればいいのだから、と思うのが普通だが、この映画のやんちゃな主人公にはそれすら容易なことでなかったよう。そのうえウナンと恋に落ちる中、ついに0.1%に相当する恩恵園を守るだけの財産を受け取ることによって、相続の放棄を決心してしまうのが最大のポイント。ジェギョンのウナンを想う気持がそれほど純粋で強く美しかったということだ。したがって、それだけでも女性客の涙を大いに誘っていたし、私も大いに涙したのだが、この映画では最後の最後に、デッカイおまけ(?)が……？

ウナンとの別れを終えたジェギョンの前に登場したのは、あれほどジェギョンが嫌っていたユ弁護士。やけににこやかに笑いかけながら登場したユ弁護士が、ジェギョンに語りかけた全く思いもよらない言葉とは……？

2007(平成19)年2月15日記